

秘儀

彼女は尻を振ってみせた
それは哀しげな舞踏であった
暗い部屋にはパイプ造りのベッドだけがあり
私はその上で彼女に突き刺した
初めて煙草を吸ったときのように
私の頭の中は次第に歪んでいった
モザイク作りの彼女の顔には
今や苦悩の秩序は存在せず
あるのは、ただ
月が投げかけた死の静寂だけだった
この海の上に浮ぶ廃都に
彼女が刻み込みたかったものを、私は知っている
それは、この儀式の最期であった
愛に汚れされたこの儀式の最期であった
私は定められたリズムを守り
彼女の中にこの秘儀を眠らせていった
そして・・・
私はナイフを突き立てたのだった
彼女の乳房の下に

(1991.6.24)